

自立活動の取組

作業療法士との連携



年間 11 回の予定で、作業療法士の鈴木先生に來校していただき、生活面や作業面、余暇等の作業療法の視点から、一人一人のニーズに応じた指導改善の方法を、学級担任と一緒に検討しています。

必要に応じて畑先生(理学療法士)も検討に参加し、作業療法士、理学療法士、学級担任、そして自立活動部と様々な視点で考えることを大切にしています。

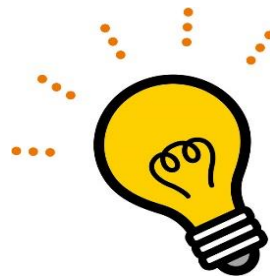
指導改善について検討した事例を紹介します。

<改善例①>スプーンの鉛筆もちがむずかしい。
⇒スプーンの持ち手を太くして持ちやすくしたら持てるかもしれません。



<改善例②>歩き方がぎこちなく、靴の内側ばかりがすり減ってしまう。

⇒足の筋力だけではなく、腹筋をつけることも大切。靴のすり減りへりが気になるのであれば、足底板をいれてもよいかもしれません。



<改善例③>音に過敏で、常にイヤーマフが必要である。
⇒どの音が苦手なのか確認しつつも、常にイヤーマフをすることが当たり前になっていないかアセスメントをしましょう。



子どもたちの「感覚」をウォッチ

子どもたちの生活面や学習面において、保有する視覚・聴覚・触覚・嗅覚等の感覚を十分に活用できるようにすることは大切な自立活動の学習の一つです。

作業療法士の鈴木先生は、感覚の特性がわかるチェックリスト(感覚プロフィール)を参考に、一人一人の児童生徒の感覚のニーズをしっかりと把握した上で、指導改善のヒントを考えています。

ぼんやりさん



びんかんさん

子どもたちの感覚は大きく4つの特性にわかれます。

しげきだいすきさん



しげきにがてさん



これらの4つの特性を踏まえた上で、生活面や学習面での指導・支援の工夫を考えています。

視覚・聴覚・触覚・嗅覚の他にも、筋肉や関節の動きなどによって生じる自分自身の身体の情報を受け取る固有覚や重力や動きの加速度を感知する前庭覚という感覚も重要です。これらの感覚面について詳しく聞きたい方は、自立活動部にお声かけくださいね。